



一隅を照らそう
8月号

319号
毎月28日発行

E-mail:info@tougakuin.jp



折りふしのはな

境内は蟬時雨のみ

住職 中島 有淳

お盆の御供えに欠かせない
“ほおづき”

ほおづきは

今年はコロナの影響で
数々の伝統行事が

中止となっています

(其ノ一)
八日、その日はお薬師さまの月例の祈祷法要の日でした。

まさに今から法要が始まろうかという午後二時直前、電話が出ると、古くからのご信者で都内在住のI氏。

「息子がどうも調子が優れないと言つて検査を受けましたら、新型コロナウイルスの陽性で、これから入院するそうです。お参りには行かれませんが、お薬師さまの御札を、お願いします。」

ご祈祷し、お札をお送りしました。

現在は退院し経過観察中の事。

そのご祈祷の最中、考へていた事があります。それは、

“私は、どこか奢つてていたのではないだろうか。目に見えない感染症を相手に、慢心をして、たいしたことない、と気を緩めてはいなかつたか？”

そして、こう思いました。

“お薬師さまの日、しかも法要の直前に電話があつた事。これは、仏さまからのお諭しだったのだ。「おまえは、奢つてはいなかつたのか」と気づくように教えて下さったのだ。”

(其ノ二)
別日に、近隣にお住まいのF家のご葬儀の様子です。

この時に出向いた副住職が伺つた話。

「長時間の三密（密閉・密集・密接）を避けるご時世もあって、お通夜とお葬式を一日でしていただきたいのです。遠方から親族も呼べません。会葬者もお声かけできないので、ごくごく、内々で行いたい。また、子供がアメリカにいるのですが、現地を出国できないので、この式の様子を中継していいですか」と、当日はスマートフォンを片手に参列されました。

たつた数ヶ月足らずで、コロナ禍はわれわれの日常を激変させました。日常の中に隣り合わせの不安があり、その不安と共に存せざるをえない生活。更にここへきて感染症の拡大は、第二波ともいえる様相を呈してきています。

当山恒例の「夏休み子供止観（坐禅）会」は中止。お盆の時期に近隣のお宅へ伺うお棚参りも、今年は激減。お施餓鬼も今年は新盆の方のみ参拝をしていただく形に方針転換。全国のお寺が、この夏はそのあり方に苦慮を迫られています。

右記の例のように、葬送の場もリモート（遠隔）化が進んでいくと、やむを得ない事ではありますが、われわれの死生観も、根本的に覆されていくようです。

お寺や、宗教者は、このような状況に何ができるのか。また、人々に何を求められるようになつてゆくのか。

まさに転換期ともいえる夏を迎えています。

叱られた 選を忘れず 墓参り

合掌

月例行事案内

- ◎八日 午後二時 薬師如来祈祷会 観音経読誦
- ◎十二日 午後二時 智泉院法要日（於・日本橋茅場町）
- ◎十八日 午後二時（非公開） 観音経読誦法要（於・神木観音堂）
- ◎二十八日 午後二時 不動明王護摩供修行

どなたさまでも
ご参詣下さい
(マスクはご着用下さい)

月例「止観（坐禅）会」
八月八日（土）十時
要予約十名・五〇〇円

何のためらいもなく
お墓参りや
お寺参りが出来ます日が
早く来ますように

(遊)

中止となっています
お盆の御供えに欠かせない
“ほおづき”

先祖の御靈のような気がします

数々の伝統行事が

中止となっています



お施餓鬼のご案内

餓鬼にいろいろな飲食を施し、万靈の追福供養の法会です。今の自分に与えられた命を尊び、感謝し長生きを願う意味をもっています。

本年は自粛し、コロナ対策の法要としますので、ご理解ご協力下さい。

尚、新盆の方のみご参拝下さい。

記

* 日 時	八月十五日（土）
* 時 間	午後二時 法要開始

あとがき



- 暑中お見舞い申し上げます.....院内一同
- 戦後七十五年。地球滅亡までの時間を示す「終末時計」は、残り一〇〇秒を示し、最も危機状態とか。現在もまだ日本は核廃絶への署名がなされていません。
- 一分間の黙祷を捧げましょう。
- 八月六日 午前八時十五分 広島原爆投下日時
- 八月九日 午前十一時二分 長崎原爆投下日時
- 本来ならば今頃は、東京オリンピックで国中が一喜一憂している筈。来年の開催も危ぶまれますが：
- 十年ぶりに裏池の掘りを実施。雨が降るとすぐに水かさが増し、思うように作業が捗りません。鯉たちは脇に設置したブームに避難中。ゆうゆうと泳ぎ、池に戻れる日を待っています。
- 花火大会も盆踊りもなし、海びらきもなし：ないないづくしの異例の夏です。心身の健やかさをどう保てるかが肝心です。くれぐれも御自愛下さい。